

2025年度予算要望書を提出



昨年10月23日、よしかわ市民ネットワークは前年に引き続き、吉川市に来年度の予算要望を提出しました。副市長に時間を頂き懇談を行いました。
(提出した要望書はHPに掲載しています)

よしかわ市民ネットワーク

◆ 議案を読む会

2月16日(日)9:30~12:00

@コミュニティスペース くるり

◆ 3月議会予定

2月25日(火)~3月21日(金)

傍聴しよう！インターネット配信もあります。

◆ まちかどカフェ&3月議会報告会

岩崎さゆり市議から市政の報告を

3月29日(土)9:30~11:30

@旭地区センター 研修室 203

岩崎さゆりの活動記録



岩崎さゆりの連絡先
070-1187-3828
sayur.ing.iwasaki@gmail.com



よしかわ市民ネットワークは
岩崎さゆりを市議会に送っています

よしかわ市民ネットワーク

3つのルール

- ① 任期は最長 3 期12年で交代
- ② 選挙はカンパとボランティア
- ③ 議員報酬はみんなの活動費



HP

2024年11月11日

放射線を測定

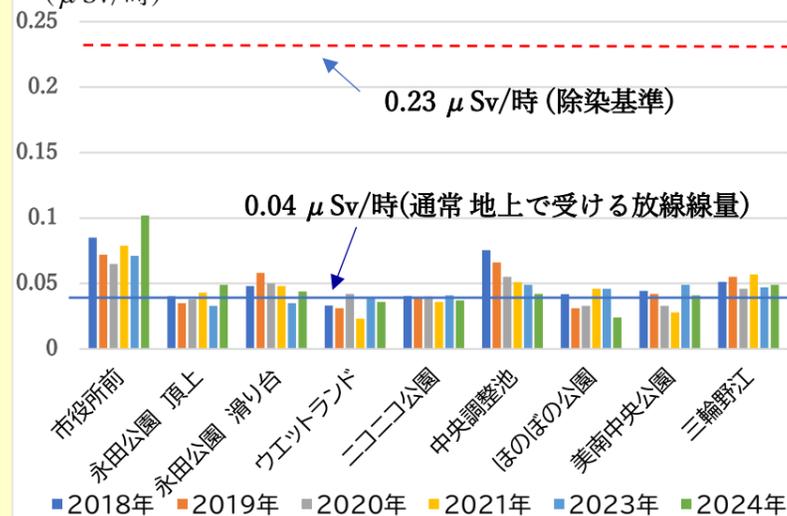


↑永田公園 頂上
美南中央公園→



2011年には多数の場所で超えていた除染基準0.23($\mu\text{Sv}/\text{時}$)をここ数年は十分下回っています。通常、人間が地上で受けると言われる0.04($\mu\text{Sv}/\text{時}$)を多少超えている場所は数か所あります。毎年、地上1mと50cmで計測していますが、低い所の方が高い数値になっています。私たちは原発事故の恐ろしさを忘れないためにも、計測を続けていきます。今年是一緒に計測ツアーに参加しませんか(^_^)☆

($\mu\text{Sv}/\text{時}$) 市内9か所の放射線量(地上50cm)



●皆様からのご意見・ご感想

ご入会希望等お問合せはこちら！

MAIL: yoshikawa.shimin.net@gmail.com

FAX : 048-983-1835

●ポスティングボランティア募集中♪

●ご寄付のご協力もお願い致します！

ゆうちょ銀行 038 普通 7744921



よしかわ市民ネットワーク



私たちのまち 私たちの手で



第43号 2025年1月発行

イネカメムシ被害に対する

稲作農家の支援と対策について

12月議会 岩崎さゆり 一般質問



市議会議員 岩崎さゆり

農家から届いた 悲痛な声

昨年の夏、県東部の田んぼでイネカメムシが前年の約8倍確認されました。イネカメムシにより稲穂の中に実がない「不稔米」や黒い斑点がある「斑点米」が生じ、収量・品質に大きな打撃を受けました。

通常、田んぼ1反(10アール)で約7~8俵の収量ですが、昨年は、吉川市だけでなく松伏町、春日部市でも1俵しか穫れないところがあったそうです。

越谷市では収穫時期が遅い「彩のかがやき」「ほしじるし」などに被害が多く、JA 越谷から越谷市に支援を要請する「要望書」が提出されたそうです。

また、羽生、行田、加須、久喜でも農業者から支援をして欲しいと多くの声があがっています。まさに災害級の被害が埼玉県東部を中心に広がったことが分かります。

被害抑制に向けてできる限りの対策を

越冬したイネカメムシによる被害がさらに拡大しないよう、市、JAさいかつ、生産者が連携してイネカメムシ防除の対策に今から取り組む必要があります。

市は、1月にJAさいかつを交え、広域防除に関する講習会を予定していますが、広域防除の実施については安全性に配慮がなされるよう、対策を求めました。

イネカメムシ被害の抑制には江戸川河川敷等の草刈りの時期が大切です。穂が出始める「出穂期」から全ての穂が出そろった「穂揃期」に配慮した日程

調整が必要です。今後の草の管理について、関係機関と相談・調整していくとの答弁でした。

農業を全力で守るために

市は「カメムシ被害拡大による減収に対する国や県の支援についての情報はない」とのことでしたが、国、県、市が連携し、農業従事者を全力で支えられよう支援を求めました。

令和の米騒動と呼ばれた昨年夏、米の価格は上がりました。しかし、農業者は、肥料や燃料などの生産資材コストの急騰により、大変苦しい状況に置かれています。安心して営農できるよう支援を求めました。

減災対策 日頃から備えることの大切さ

- ① 昨年11月に北谷小で行われた減災プロジェクト。2回の事前リハーサルを開催し、自治会など市民が中心となり HUG(避難所運営ゲーム)訓練などを行ってきました。参加者から「資機材の組み立て方について自治会から教えてもらい、初めてでも対応することができた」。また、要支援の方がサポートを受けながら避難者役として参加され「引き続き訓練に参加したい」という感想があったそうです。

今後も「災害時避難行動要支援者」も安心して参加できるような配慮や工夫を市に求めました。

- ② 災害時用マンホールトイレは市内に89基あります。いざという時に活用できるように、マンホールトイレの仕組みや設置箇所等の情報をHPや減災マップ等での周知・検討を求めました。



さゆりの毎日コツコツと

「全国オーガニック給食フォーラム」(2日間)に参加

11月8、9日に茨城県常陸大宮(ひたちおおみや)市で、自治体としては初めての開催となる「第2回全国オーガニック給食フォーラム」が行われました。

今回のテーマは「もっと広がり オーガニック給食。農協も一緒に給食を変えよう」です。素晴らしいテーマに胸が熱くなります。

常陸大宮市では、学校給食のオーガニック化を柱に「有機農産物の生産から消費まで地域全体で取り組む」ことを掲げ、一昨年オーガニックビレッジを宣言。

当初、市職員には「有機は無理」という抵抗があったそうですが、行政とJAが連携し、一つひとつ丁寧に組み着実に進めてきました。



フォーラム1日目は、その成功事例を学ぼうと、全国から農協組合長や市町村長、生産者などオンラインを含め約1200人が参加しました。基調講演や、取組事例の発表など、子ども達の健やかな未来とオーガニック給食にかける強い思いが感じられるものばかりでした。

2日目は、有機野菜栽培圃場(ほじょう)と有機農産物フェアの見学会でした。「対立より共生しながら一緒に進む」ことを大切に、約2年間という短い期間でオーガニック給食を実現した常陸大宮市に「あっぱれ！」です。



有機かぼちゃのアイスを試食♡

よしかわ市民ネットワーク会員 m

吉川で農と出会う ④

がんばれ 吉川産!!

昨年の初冬に行われたイベントの『マルシェ』で、有機農業者の野菜直売のお手伝いをした。売り場には、葉付きニンジンやカブ、ホウレン草、サツマイモなどの秋冬野菜、ケールやラディッキオなど普段あまり目にしない西洋野菜が並んだ。

マルシェには、お客さんと生産者が直接会話するおもしろさがある。「吉川産ですか」という問いかけも多かった。お客さんの、有機栽培への関心や地場産へのこだわり、地元の農業者を応援する気持ちが伝わってきた。

生産者の中には、新しく農業を始めた若い人たちもいた。有機農法で育てた野菜をアピールするには、「有機 JAS 認証」制度があるが、取得するには、お金も時間もかかり、すぐには踏み出せない面もあるようだ。他にも取り組みやすい仕組みがあるといいのにと

思っていたところ、千葉県いすみ市の認証制度を知った。いすみ市では、2023年度から市独自の「いすみそだち」認証を開始しているようだ。

「いすみそだち」の主な特徴は

- 野菜を健康に育てるための 地域由来の資源(堆肥や緑肥など)を用いた土づくり
- 栽培期間中における化学合成農薬と化学肥料の不使用
- 遺伝子組み換え技術の不使用の三つ。



4月に申請し、書類審査と実地検査を経て6月末に認定証明書の交付、7月1日より認証マークを表示した販売、という流れになっている。認証手数料は当面の間無料とのことだ。

そうか！自分たちの街で、自分たちが納得できる認証制度をつくって活用するという方法もあるんですね。簡単なことではないけれど、いろいろな可能性が広がっていることに気づかされた。(m)

変じゃない!? 日米地位協定

アメリカは世界 80ヶ国に 750 の基地を持ち、120 以上の地位協定(駐留米軍の行動に関する取り決め)を結んでいます。日米地位協定は、その一つですが他の地位協定と大きく異なっています。

沖縄で米兵が犯罪を起こしても基地に入ってしまうと、逮捕できません。米軍機の墜落事故が起こっても日本の警察は捜査できません。逆に米軍は、許可なく立ち入りできます。アメリカ軍の許可がなければ、東京の上空を日本の飛行機は飛ぶことができません。(横田空域)。PFAS(有機フッ素化合物)のような有害物質が基地から出ている疑いがある場合、米軍の許可が無ければ立ち入り検査できません。

「米軍は日本国内のどこでも基地を提供するよう求める権利があり、日本側は合理的な理由がなければ拒否できない」(外務省内部文書)。

日本以外の国では、基地建設、軍事訓練、軍事行動などに関し、すべてその国の許可が必要ですが、日米地位協定では、これらはほぼ自由に行えることになっています。横田空域のような特権を米軍に与えている国は日本以外にないのです。これは国際常識に反し、異常なことではないでしょうか。(T・M)

防災 豆知識♡ 災害用伝言ダイヤル 171



『災害用伝言ダイヤル 171 体験』



大きな災害が発生すると、知り合いの安否確認の電話をしたくなるのは自然なことです。でも、みんなが一斉に電話すると、電話回線がパンクして、被災地の誰かのSOSの電話(110番や119番)が繋がりにくくなってしまいかもかもしれません。

そんな時こそ「災害用伝言ダイヤル171」の出番です。

171をダイヤルして、被災地の方の電話番号を入力すれば、あなたのメッセージを録音で伝えることができます。平時から、その仕組みがあることを知って、お知り合いにもその仕組みを伝えておきましょう！

毎月1日と15日に練習ができます。ぜひ、ご家族でも一度試してみてください。

災害を無くすことはできません。でも、備えることで、災害で受けるダメージを減らすことが出来るんです！(MO)



吉川 教育を考える会

吉川市の教育大綱『家族を郷土を愛し 志を立て 凛として生きてゆく』というのをご存じですか。小・中学校の学校だよりには毎月紹介されています。

文科省が「個別最適化」を教育の基本とし、多様性が強調される今、「社会の為に 志を立て 凛として生きる」べきとも取れるスローガンを示すことが、多様な育ちの子どもたちがいる教育現場に相応しいのか。そう疑問をもったメンバーが集い、始まりました。

深刻な教員不足問題、30万人にも及び増加し続ける不登校の

小・中学生、一人1台タブレット端末による急速な学校教育現場のデジタル化…教育にかかわる様々な問題は山積しています。教科書選定の場を見に行ったり、教育委員会を傍聴したりしながら、じっくり話し合い、皆で考えていきます。

GIGAスクール構想、教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)など、教育の世界は横文字が氾濫して理解するのが大変ですが、楽しく話し合っています。二ヶ月に1回の例会です。

興味関心のある方は、☎048-983-4003 清川まで